

1 単元名 わたしたちが考える幸せな町づくり～石岡市の魅力について～

2 本単元の目標

- (1) 米づくり体験などを通して、地域の農業と特産物には関連があることに気付き、工夫して農業生産をしていることを理解するとともに、自ら課題を考え、課題解決に必要な情報を I C T 等の活用により収集及び比較・分類するなどして相手や場面に応じた方法で実施する。(知識及び技能)
- (2) 石岡市の発展への願いから課題を設定し、石岡市の魅力を伝えるスイーツを考える過程で課題を解決する方法を選び、問題解決に向けて見通しをもって計画を立てて、必要な情報を整理・分析し、石岡市の魅力が伝わるよう表現する。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 課題解決に向け、試行錯誤して考えるなど協働して探究活動に進んで取り組み、自分の住む地域のよさを知り、それらを守り大切にしようとする。(学びに向かう力、人間性等)

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 米づくり体験などを通して、地域の農業と特産物には関連があることに気付き、工夫して農業生産をしていることを理解している。 ② 自ら課題を考え、課題解決に必要な情報を I C T 等の活用により収集及び比較・分類するなどして、相手や場面に応じた方法で実施している。	① 石岡市の発展への願いから課題を設定し、石岡市の魅力を伝えるスイーツを考える過程で課題を解決する方法を選び、問題解決に向けて見通しをもって計画を立てている。 ② 自分の課題について、解決に必要な情報を整理・分析し、石岡市の魅力が伝わるように分かりやすく表現している。	① 課題解決に向け、試行錯誤して考えるなど探究活動に進んで取り組み、協働して学び合おうとしている。 ② 石岡市について体験したことや学習したことを通して、自分の住む地域のよさを知り、それらを守り大切にしようとしている。

4 単元について

(1) 教材観

本単元では、田植え・稲刈りを自分たちで経験し、できあがったもち米を使って、石岡市の魅力を伝える『石岡産もち米スイーツ』を考えデザインしていく。そして、石岡市商工観光課の職員になったつもりで、学級で自分のデザイン案のプレゼンをし、幸せな町づくりを自分たちで考えていくことをねらいとした単元である。この過程を通して、石岡市のよさを知り、守り大切にしていこうとする態度を高めてしていくことが期待できる。また、自ら課題を考え、問題解決に向けて、友達と協力するなどして粘り強く探究し、魅力が伝わるよう表現できるような資質・能力を養う。

(2) 児童観

児童は、前年度までの総合的な学習の時間で、石岡市の歴史や伝統、催し、特産物等についてふると学習を行ってきた。その中でいろいろな特産物について学んだが、日常生活の中でそうした地域性や食のつながりについて考えることは少なく、どんな思いで農家の方々が農業に携わっているのかまでは気付いていないと思われる。その思いに気付き、その思いを踏まえた上で、石岡市を幸せな町にしていくためにはどうす

ればよいか自分たちで考え、特産物等を生かした社会参加を考えていきたい。

また、これまで総合的な学習の時間では探究的な学びとして、課題の設定、情報の収集、整理・分析、目的や意図に応じたまとめ・表現の過程を行ってきたが、表現の場面で相手（ユーザー）を意識したデザイン思考やものづくりは経験が少ない。そこで本単元では、ただ発表するのではなく、社会参加のためのユーザーを意識したデザイン思考を体験できるようにしていきたい。

（3）指導観

本単元の学習にあたっては、社会科「米づくりのさかんな地域」の学習と関連付け、農家の方々の思いや苦労を社会科で学んでいく。加えて、地域の方と共に米づくりの体験をすることで、自分たちの地域に愛着を深めるとともに、自分たちが住む地域のよさを守っていくという思いをもつことができるようにする。そのために、単元の導入では、地域の方と田植えを経験し『石岡産もち米』を使って、石岡市の魅力をアピールするためにはどうすればよいか考え「石岡市の魅力をアピールする『石岡産もち米スイーツ』を考えて、石岡サンド図鑑にのせよう！」という本単元の課題を設定する。また、国語科では、米づくりや田植え体験で得た知識や情報、考えなどを「書くこと」に重点をおき、相手に自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する学習を行い、より深い理解につなげる。さらに家庭科では、稲からご飯になるまでを学んでいく中で、もち米の特徴についても学習していき、どんなスイーツに向いているかを考えていく。お米を炊く学習の中でも、もち米とうるち米の炊き方の違いに触れたりしていく。

自分たちで『石岡産もち米スイーツ』をデザインしていく過程を通して、どのようなスイーツであったら興味をもってもらえるか、石岡をよりアピールできるかなど、4観点（①商品名 ②味 ③みため ④石岡市の魅力）に着目しながら考え、デザインする。学級では中間発表を行う。商品には、自分が食べたいものという意識だけではなく、ユーザーを意識したデザイン思考が必要であることから、他者の意見を取り入れながら改良し、デザイン画を完成させる。最後は『石岡サンド図鑑』に自分スイーツを載せたオリジナルパンフレットを作成し、石岡市商工観光課の職員になったつもりで、学級でプレゼンテーションをする。どのスイーツに共感したか、石岡市の魅力をしっかりと伝えていたかを考え、幸せな町づくりにつながるといったスイーツに投票していく。この過程で、より自分ごととして他者の意見を聞くことができ、石岡市に愛着をもつことにつながる。

複数の教科を関連させた長期的で複合的な学習は、初めての経験である。このようなSTEAM教育は、自分のアイデアと他者からのアドバイスを交流させ、石岡市の魅力を伝えるデザインを考えていく上で、効果的ではないかと考える。自分で一から生み出す難しさと楽しさを体験させていきたい。

5 関連的に学習する内容

（1）社会科「米づくりのさかんな地域」

米づくりに関わる人々の工夫や努力に着目する。米づくりの1年間の進め方や生産性を高めるための工夫に着目する。米づくりについて問題を見だし解決する。

（2）国語科「地域のみりよくを伝えよう」

社会科や田植え体験を通して米づくりについて理解を深めたことを、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する。

（3）家庭科「食べて元気に」

伝統的な日常食である米飯に着目し、うるち米について学ぶ中でもち米の特徴についても一緒に学ぶ。うるち米ともち米の調理の仕方を理解するとともに、炊飯することができるようにする。

6 題材の指導計画（28 時間扱い）

★は STEAM 教育に関連する学習内容や活動、○は指導に生かす評価場面、◎は記録に残す評価場面

小単元名（時数）	ねらい・学習活動	知	思	態	評価方法
1 田植えを体験し、石岡産もち米で「わたしたちが考える幸せな町づくり～石岡の魅力について～」を考えよう。（4）	・ 去年の田植えの経験から、お米を収穫することの大変さに気づき、その米で石岡市の魅力を発信できないか考え課題を設定する。		①		・ 発言内容 ・ 行動観察
	・ 実際に地域の人と協力して、田植え体験を行い、農業の工夫や大変さを知る。	①			・ 行動観察
	・ 学習課題に照らし、石岡産もち米でどんなことをしたら石岡市をアピールできるのか考える。 ★総合的な学習の時間に、田植え体験を行ったり、幸せな町づくりについて考えたりする。			①	・ 発言内容 ・ ワークシート
2 米づくりに関わる人々は、どのような工夫や努力をして、米を生産しているのか考えよう。（2）	・ 農家の人々が米づくりをどのように進めているか調べて話し合うことを通して、米づくりが1年を通して計画的に行われていることや、稲の成長に合わせて工夫や努力を重ねていることを理解する。 ・ 米づくり農家が、生産性を高めるためにどのようなことをしてきたか調べることを通して、耕地整理や機械化などの工夫をしてきたことを理解する。 ★社会科で、米づくりに関わる人々の工夫や努力、生産の仕方などを学習する。	①			・ 発言内容 ・ ノート分析
3 米づくりについて調べたことや考えたことを、伝わりやすい文章で書くにはどうすればよいか。（8）	・ 社会科の学習や田植え体験を基に、読む相手を意識し、情報収集したことを、事実と考えを分けて、相手に伝わりやすい構成で文章を書く。 ★国語科で、社会科や田植え体験で学習したことを実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する。		②	②	・ 原稿
4 稲刈り体験をしよう。（2）	・ 実際に地域の人と協力して、稲刈り体験を行い、農業の工夫や大変さを知る。 ★総合的な学習の時間に、稲刈り体験を行う。	①			
5 なぜ毎日食事をするのだろう。（1）	・ 伝統的な日常食である米飯に着目し、稲から米、ご飯になるまでを学習し、米とご飯の成分の違いとともにもち米についても学習し、うるち米ともち米の特徴の違いについて理解する。 ★家庭科で、米飯について学ぶ中でもち米の特徴についても学習し、その特徴を『石岡産もち米スイーツ案』に生かす。	②			・ 発言内容 ・ ノート分析
6 石岡市の魅力をアピールする『石岡産もち米スイーツ』を考えて、友	・ 石岡市の魅力を伝える『石岡産もち米スイーツ』を、4観点に着目してデザイン案を考える。 ・ 4色の付箋に、4観点についてのスイーツの説明を詳しく書いて、ワークシートにはる。		②		・ ワークシート

達からアドバイス をもらい改良して いこう。(5)	①商品名（食べてみたくなるか） ※赤色付箋 ②味（もち米の使用場所、工夫点） ※黄緑付箋 ③みため（購買意欲をそそるか） ※青色付箋 ④石岡の魅力（アピールポイント） ※黄色付箋				
	【本時】 1 本時のめあてを確認し、活動の見通しをもつ。 課題 石岡市の魅力をアピールする『もち米スイーツ』を考えて、友達からアドバイスをもらい改良していこう！ 2 発表の仕方について確認する。 (1) 発表者 ・相手を見ながら話す。 ・デザイン画と付箋の説明がよく見えるように話す。 (2) アドバイザー（聞く人） ・メモ用紙に4観点に着目しながら、気付いたこと、思ったことを記入する。 3 発表を始める。(1分) 4 質問する。(1分) ・聞く人は気になったことを質問する。 5 アドバイザーは付箋を書く。(5分) ・4色の付箋にそれぞれ気付いたこと、よかったこと、工夫や改良した方がいいこと等を記入していく。 6 感想やアドバイスを伝える。(4分) ・4色の付箋を発表者に渡ししながらアドバイスや感想を伝えていく。 ・班の全員が順番に付箋を渡していく。 ・発表者はもらった付箋を自分のワークシートに貼っていく。 7 3～6の流れを全員が順番で行う。 8 アドバイス付箋をもとに、振り返りを行う。 ・自分が参考にしたい付箋を〈振り返り〉に貼り、改良点をワークシートにまとめていく。 9 班で一人代表者を決めて、学級で報告会をする。 ・代表者のデザイン画と振り返りを全体に表示し発表することで、他の班の考えも参考にする。			①	・発言内容 ・ワークシート
	・参考にした友達の意見を取り入れながら、ワークシートにデザイン画の清書を描く。 ★総合的な学習の時間に、自分のデザイン画の中間発				・ワークシート

	表を行い、ユーザー側の視点で他者の意見を取り入れながら思考錯誤し、デザイン画を完成させる。				
7 ご飯とみそ汁を作って食べよう。 (2)	・おいしいご飯の炊き方を調べる。 ・もち米の炊き方も調べ、調理の仕方を理解する。 ★家庭科で、うるち米ともち米の調理の仕方を理解し、その特徴を理解する。			①	・行動分析 ・振り返りシート
8 自分の『石岡もち米スイーツ』を石岡市商工観光課の職員になったつもりでプレゼンしよう！(4)	・タブレット端末を使い「石岡サンド図鑑」に、完成した自分の『石岡産もち米スイーツ』を掲載し、オリジナル『石岡サンド図鑑』を作成する。	②			・パンフレット
	・どの『石岡産もち米スイーツ』を採用するか学級で決めるために、自分のオリジナル『石岡サンド図鑑』を使いながら、石岡市商工観光課の職員になったつもりでプレゼンテーションを行う。		②		・発言内容
	・プレゼンテーション後、どのスイーツが一番石岡市の魅力を伝えており、幸せな町づくりにつながりそうなのかを考え、投票用紙に商品名と選んだ理由を記載し、投票箱に投票していき、石岡市への愛着を高めていく。 ・開票し、各学級の『石岡産もち米スイーツ』代表を決める。 ・各クラス代表と全員のオリジナル『石岡サンド図鑑』を印刷し、各学級で交流しながらお互いのアイデアが見られるように掲示する。 ★総合的な学習の時間に、完成したデザイン案でパンフレットを作成し、他教科で得た知識や考えを取り入れながら、見ている人に伝わるようなプレゼンテーションを行う。			②	・行動観察 ・投票用紙